

会 議 録

1 会議名

令和6年度第5回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・こどもプールの廃止について（公開）
- ・海洋フィッシングセンターの今後の方針について（公開）

【自主的な審議】

- ・地域ぐるみの防災活動の推進について（公開）
- ・地域内視察について（公開）

3 開催日時

令和6年10月15日（火）午後6時30分から午後8時35分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

3人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委 員： 磯田一裕（会長）、田中美佳（副会長）、古澤悦雄（副会長）、青山藏吉、稲川真智子、今川芳夫、鴨井辰典、関澤隆一、田中 実、田中由美子、土肥 優、沼波建太、古谷信人、保坂邦之、増田和昭、丸山岳人（欠席者2名）
- ・市民安全課： 水谷副課長
- ・危機管理課： 岩崎課長
- ・農林水産整備課： 高嶋課長、松井副課長、加藤係長
- ・都市整備課： 大堀副課長、三原田係長
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【磯田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：土肥委員、古澤副会長に依頼
議題【報告事項】こどもプールの廃止について、都市整備課へ説明を求める。

【都市整備課：大堀副課長】

- ・挨拶
- ・資料No.1「こどもプールの廃止について」に基づき説明

【磯田会長】

今ほどの報告に質問等はあるか。

【古谷委員】

利用者数について、令和6年度分の記載はないが、もし分かっていたら教えてもらいたい。

【都市整備課：三原田係長】

令和6年度の利用者数は5,012人で、その内訳は、子どもが3,842人、大人が、1,170人である。

【古谷委員】

承知した。

【磯田会長】

廃止の経緯の中で、「関係部局へ聞き取りを行った結果」と記載されているが、どんな内容の聞き取り調査を、誰に対して行ったのか教えていただきたい。

というのは、私も町内等のいろいろなところで夏のこどもプールを見ているが、特に乳幼児や小さな子どもの利用率は非常に高いのではないかと考えている。利用の期間自体はそれほど長くはないと思うが、利用希望は根本的にはあるのではないかとと思うのでお聞きしたい。

【都市整備課：三原田係長】

市内部では、幼児保育課と学校教育課、こども政策課に聞き取りを行っている。そのほか、利用実績のある保育園13園に対して調査を行った。

関係課からの意見としては、こどもプールが廃止になったとしても、市内のプール施設で子どもを安心して遊ばせることができるよう工夫することで代替可能とのことであった。

また、こどもプールは気温が35度を超えたら中止としている。これは、気温35度に加えてプールの水温が30度、計65度というのが一つの目安になっているが、水温が30度を超えると、塩素系の消毒の効果が発揮されなくなってくるため中止にしている。そういったリスクの高さと、水との親しみはプール以外でもできるのではないかとの見解も関係課からからは示されている。

加えて、小さいお子様は、猛暑の中では体温調整が難しいので、大人以上にリスクが高いとの意見もあった。

【磯田会長】

設問自体が廃止を前提にしているように感じたが、そういう見解があったとしても、すべてのプールを一斉に廃止してしまうのはどうなのか。子育て世帯へのサービス低下につながる可能性もあるという観点で検討はされてきたのか。リスクの話ばかりが前面に押し出されているように感じる。

これが、諮問にかからずに地元町内会との話だけで決定されていくというのはいかがなものかと個人的には思っている。その辺の考え方についてはいかがか。

【都市整備課：大堀副課長】

廃止にあたり我々も利用実績等を見ながら検討してきた。

12か所一斉ではなく、段階的に廃止ということも検討したが、どの施設も老朽化が進んでおり、大体毎年、開設する前に修繕工事をして開設している状況のため、老朽化の進み具合と、利用実績から、12か所一斉の廃止を決めた。

【磯田会長】

告知の仕方や市民への説明の仕方について、地元町内会だけの協議でいいのか、広く市民に説明が必要なのではないか。

【都市整備課：大堀副課長】

今回の廃止に関しては、関係町内会とこどもプールが所在する町内会、関係する課等の意見を聞いた上で廃止を決定した。あくまで公園にあるプール施設ということで、条

例に規定のない施設であり、地域協議会への諮問案件にもなっていないため、報告とさせていただきます。これ以上広く市民に説明等を行う予定はないところである。

【土肥委員】

今子どもが中学生と小学生である。

このプールは、結構私も利用させてもらった。リージョンプラザ等へ行くとお金もかかるし、気軽に利用させてもらっていたので、老朽化等の理由もわかるが、すぐに廃止になってしまうのはとても残念なことだと思う。

子どもたちで気軽にであったり、親子でいけるプールとしてよく利用させてもらっていた。リージョンプラザに行くととても人が多くて、ごみごみした感じがある。きっと努力もたくさんされてきたのだろうが、子育て世代としては、全部ではなく、地区に一つでも残してもらえたらというのが個人的な感想である。

上越は子育てがしにくい、冬遊ぶ所がないという声を聞くので、何かそういう充実をしてもらえたらいいと個人的には思う。

【都市整備課：大堀副課長】

こどもプールは、幼児や児童が水に親しめる場所として始まっている。我々も何回も現地に足を運んだ。ご利用されている人もいるので、廃止は苦渋の決断であった。

今回のこどもプールに関しては、屋外ということがあり、やはり安全面等を考えてこの決断になった。

【古谷委員】

令和5、6年度の営業日は何日くらいだったのか。営業日が少ないのにもかかわらず利用人数が上がっているのであれば、利用される方は多いのではないかと。

また、どれぐらいの事故発生のリスクがあるのか、管理人や監視員の人件費等がどの程度かかっているのか、ご存じであればお伺いしたい。

【都市整備課：三原田係長】

令和5年度は非常に暑かったこともあり、28日間開設する予定のうち、開設できたのは11日間となっている。今年度は28日間開設する予定のうち、開設できたのは25日間だったので、これが増えた要因だと考えている。

事業費の関係については、管理業務と監視業務、ろ過機の保守点検という機械のメンテナンス、そういった委託費を合わせると、12のこどもプールの合計でおおよそ1,700万円を超えるぐらいとなっている。

【都市整備課：大堀副課長】

リスクに関しては、いつも開設の準備に当たってプールの修繕を行っている。例えば、プールの中の塗装が剥がれていると、そこに触った子どもたちの擦り傷の原因になるので、業者等を入れて修繕を行っている。お金もかかることなので、使用前には我々も点検に行って、なるべくお金をかけないように点検をしっかりとすることで、擦り傷はだんだんなくなっている。

あと、熱中症関係では、体調を崩す方はわずかにいるが、管理人等がしっかり管理することで、重大な事案にはなっていない。事故についても、管理人等が飛び込みをしている利用者への注意を行うなど、危険行為にきっちり対応いただいていることもあり、大きな事故等はないところである。

【磯田会長】

そうすると、施設の管理業務、監視業務、ろ過機の保守点検等で全体として1, 700万円ほど、1か所100万円ちょっとの金額がかかっているという考えでよいか。

【都市整備課：三原田係長】

先ほど説明した委託費以外にも、修繕費や電気代、水道代がかかっているため、1, 700万円よりもかかっている。

【磯田会長】

それが上越市の財政を揺るがすような負担なのか、また、子育て世帯へのサービスとして妥当なのかというところも判断されて決められたというふうに理解してよいか。

【都市整備課：大堀副課長】

利用者一人当たりどのくらいの公費が投じられているかという面も判断材料としながら廃止の検討をしてきた。

【増田委員】

施設の廃止や制度の廃止に関して、市民の抵抗感はすごく強い。仮に利用していなくても廃止には反対という人もいる。そういうことを考えたときに、丁寧に市民に説明する必要がある。利用者が少ないから廃止ということではなくて、修繕費や運営費がこれだけかかっている。修繕費もこれからどんどん大きくなる。そういうことを丁寧に市民の皆さんに説明すると、市民の皆さんもちゃんとわかると思うので、数字をもって、懇切丁寧に説明していただくようお願いしたいと思う。

【磯田会長】

ほかに質問がなければ、こどもプールの廃止については以上とさせていただきたいと思うが、いかがか。

(委員了承)

－ 都市整備課 退室 －

【磯田会長】

では引き続き、海洋フィッシングセンターの今後の方針について、農林水産整備課へ説明を求める。

【農林水産整備課：高嶋課長】

・資料No.2「上越市海洋フィッシングセンターの方針について」に基づき説明

【磯田会長】

では、質疑応答に入らせていただく。質問等はあるか。

【丸山委員】

廃止するにあたっての要望だが、あそこは下へ降りていくと岩場があって、魚が目の前に来たり海藻があったり、海洋生物が楽しめる場所でもあるので、できれば市民も県外の方も日本海をちょっと楽しめる、そういった環境に整備してほしいと思う。単なる要望だがよろしく願います。

【農林水産整備課：高嶋課長】

廃止の方向なので、撤去など今後についてはまだ検討中であるが、下へ降りて行って事故が起きたりしないように、管理責任の所在の問題もあり、大変申し訳ないがフェンスを付けて、降りられないようにしたいと思っている。

要望としてお聞きするが、今のところそのように考えている。

【磯田会長】

ほかに質疑等はあるか。関澤委員、五智の方から行くことはあるか。

【関澤委員】

あまり私も利用したことはないが、県外、特に長野の人が多いのではないか。私も現役の頃は毎日のようにあそこを通っていたが、利用者はあまり多くなかった。今説明を聞いたが、廃止やむなしではないかという気がする。

【磯田会長】

ほかに意見を求めるがなし。

これは、いずれ諮問という形で出てくるかと思うので、よろしく願います。

－ 農林水産整備課 退室 －

次に、議題【自主的な審議】地域ぐるみの防災活動の推進について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

第2回の協議会で自主的審議事項である「地域ぐるみの防災活動の推進について」を話し合っていくにあたり、能登半島地震以降の防災に関する市の取組について、現状を把握したいというご意見があった。

そこで、本日は、防災関係課の危機管理課と市民安全課から説明をいただく。

【危機管理課：岩崎課長】

・資料No.3「令和6年能登半島地震 市の被害状況、対応状況について」に基づき説明

【磯田会長】

ただいまの説明に対し、質問はあるか。

【関澤委員】

私は、国府1丁目の町内会長をしているが、能登半島地震の際には、うちの町内会館に避難してきた人が10名ぐらいいて、そのうち半分が一泊していったが、そういうことをどこかに報告する義務はあるのか。

【危機管理課：岩崎課長】

指定避難所や福祉避難所には担当の職員を配置することで、避難者数は把握しているが、関澤委員がおっしゃられたとおり、町内会館にいたり、緊急避難場所として高台に逃げたという方もいらっしゃる。

今のところ報告の義務というものはないが、今後、避難所以外への避難者を把握する方法について、具体的にどうしたらいいかということを検討していきたいと考えている。

【関澤委員】

アンケート等とってもらえれば、避難者数は上がってくるのではないかと。元日だったので、県外からのお客さんもたくさん来ていた。地震が起きてすぐ、町内を一回りしたが、高台のほうに避難した方はたくさんいた。

【古澤副会長】

町内会長協議会としては、意見交換会とその後のワークショップを経て、最終的には津波避難計画の見直しを行って一応終了したかと思っている。

ただ、10月12日に総合防災訓練が実施されたわけだが、災害時の避難経路を知らない方が多かったので、その方たちへの周知方法も検討する必要があると思う。また、ハザードマップで白く図示されている地区は津波でも避難しなくて大丈夫ということだが、知らずに避難したという新聞記事を見かけたので、避難について共有化できる情報は網羅的に流したほうがいいのではないかなと思う。

私は沖見町だが、津波が来たときは直江津中学校が避難先で、地震の際は直江津小学校が避難先である。その住み分けを一般の方は全然知らない。そのあたりは、町内会長協議会と行政の方々が一体となって伝えていかなければならないのではないかなと思っているので、協力をお願いしたい。

【危機管理課：岩崎課長】

古澤副会長のおっしゃるとおりだと思う。

私は4月から危機管理課に所属しているが、まず、初めにハザードマップを見てもらうことが大切だと感じている。

自分の住んでいる周りで危ない所はないのか。自分の避難場所はどこなのかというところが、災害の種類によって異なる。ハザードマップを見てもそれだけではわからない方もいらっしゃると思うので、我々行政だけの力では全部浸透させるのは難しい。ここにいる委員さんや町内会長の皆さんの協力が必要であると考えているので、もし町内会で防災に関する講習会や避難訓練等の機会があれば、私たちが直接行ってお話することもできるため、是非お呼びいただければと思う。

【田中実委員】

この間の津波で、学校等のいくつかの避難所はガラスを割って中に入ったということだが、うちの向かいにも避難所があって、元旦の避難の際に3、40分経っても担当者が来られなかったので、集まった人でガラスを割って入ってよいものかどうかという話になった。いざとなったら割って入ってもよいのか。

もう一点。先日、総合防災訓練があったが、複数のスピーカーの音が干渉してJアラートが非常に聞き取りにくかった。改善できるものであれば、改善していただければありがたい。

【危機管理課：岩崎課長】

緊急時に避難所のガラスを割って入ってよいのかというご質問については、割って入ってもらって大丈夫である。緊急時に命を守るというのが避難所なので、まずはその仕組みについてご説明させていただく。

避難所の開設については、避難所ごとに初動対応職員を二、三人指名してあり、開設時には駆けつけることになっている。問題は、津波の場合は、職員には津波警報が出ていて、浸水する地域については、津波が来る方向に突っ込むような形になり危険なため、行くなと言ってある。その場合は、町内会、または、施設管理者のほうで鍵を開けるといって、市の職員、町内会、施設管理者の三者で協力をして、早く到着した人が避難所を開けるというルールになっている。当初、避難所を開設する際に市の職員が全然来なかったとお叱りを受けたところだが、そういった事情があるというところをご理解いただきたい。

その他、合鍵がもっと必要といったところについては、合鍵を作って既に対応しているが、それでもなお緊急時に間に合わないところについては、ガラスを割って入ってもらって問題ない。

スピーカーの音の干渉については、聞こえづらいところは場所によってあると思う。

今、市では、防災行政無線の更新工事を、6、7、8年度と3か年かけて更新する予定でいる。その際に鮮明に聞こえる高性能スピーカーに一部取り替えを予定しているので、その中で改善をしていきたいと考えている。

【沼波委員】

先ほど、まずハザードマップを見ていただきたいとおっしゃられていたことについて、元旦の被災以降、ハザードマップの減りが早かったものか。

【危機管理課：岩崎課長】

災害があるとやはり防災の意識が皆さん高くなるので、ハザードマップを求める声が多くなった。また、事業者の皆さんからも、市民の皆さんに周知したいので、何部かいただきたいという問合せがあった。

更に、防災ラジオでも避難情報や災害情報を流すので、そういう機会に、防災ラジオが少し聞こえづらかったとか、聞こえなかったとか、そういった問合せはあった。防災ラジオに不具合があれば無償で交換するので、ご連絡いただきたい。

【沼波委員】

ハザードマップを見るというところが一般の方にはハードルが高いのではないかという思いから、ハザードマップ導入のドリル等を私ども良品計画で作らせていただいた。総合防災訓練でも良品計画のブースで、大きなポスターとドリルを置いて展示したところ、お子様は興味を持ってクイズを解くので、その流れで興味がなかった保護者の方たちにハザードマップを持って行ってもらうという流れを作りたかったが、ハザードマップの在庫が現状少ないとのことだったので、今後もこの啓発を続けていくのにハザードマップの在庫の確保を是非お願いしたいと思う。

また、子どもたちを中心に防災について興味を持っていただくことをテーマに、今年5回目になる「いつものもしもCARAVAN」をやらせていただく。チラシの裏に「もしものドリル」というものがあり、避難に関して市民の方が興味を持ちやすい内容のクイズを掲載している。こちらもぜひ、皆様で広げていただいて、いずれは市民の方で開催するイベントにしていけたらと考えているので、ぜひご協力をお願いしたい。

【田中美佳副会長】

10月12日の総合防災訓練より前に、私たちの町内で防災訓練があった。皆さんの防災意識が高まっているので、今まで以上に力の入った防災訓練をするのかと思ったが、今までとあまり変わらなかった。町内会長は、班長さんたちにお任せしながら、ちょっと今までと違うことをやってみてもらうよう伝えたようであるが、あまり変わりはないかった。

私は地域協議会で話を聞いているので、町内によっては意識の高いところもあることを知っている。自分たちで新たなことを考えるのはなかなか大変なので、ほかのところの取組など、良いところを参考にさせてもらえるよう、情報共有してもらえればよいと思った。

【危機管理課：岩崎課長】

おっしゃるとおり、町内会ごとに避難訓練等のやり方が違っていて、精力的に取り組んでいるところもあるし、毎年やっていることだからということで、同じような内容でやっているところもある。

古澤副会長はものすごく熱意のある方なので、本当に苦労されて町内をまとめられていることも承知しているし、港町1、2丁目についても、一番津波等の被害があったところなので、市の訓練の前に町内で訓練を実施して、何回も検証されていた。

市に防災士や防災アドバイザー等の派遣制度もあるので、そういった方々の話を聞いて

て、ほかの町内の取組を聞いてもらってもいいし、我々職員も呼んでいただければいつでもお話できると思うので、是非そういった機会に呼んでいただけたらと思う。

【磯田会長】

昨年、直江津区地域協議会で「(仮称)直江津区地域ぐるみの防災活動推進事業」という地域独自の予算事業を市の実施事業として提案した経緯がある。

そのときも、町内ごとの温度差や町内での情報の伝わり方の違いが課題とされていた。例えば、私の町内は10月12日の総合防災訓練の情報は回覧板が回っただけで、ほとんど情報が入ってきていない。また、元旦の震災以降、市がどんなワークショップをやったか、何を決めたのか、それすらも伝わっていない状態だった。

震災以降、地域協議会には市の動きの情報共有はなく、市と一緒に動いていくということもなかった。市と町内会の間でずっとやりとりをしていた状態だったと思う。

先ほど岩崎課長から、是非連携してほしいというお話もあったが、市の取組の方針として、地域協議会や防災士会を絡めて活動したり、各町内の底上げをしていくということについて、どうお考えになっているのか。また、昨年度の我々の提案について、その際は市の実施事業としては取り組まないとのことであったが、どのようにお考えかお聞かせいただきたい。

【危機管理課：岩崎課長】

地域協議会への説明について、こちらから積極的にしていかなかったことは反省点だと思うので、直江津、五智地区の課題について、市の取組状況は逐次説明をさせていただきたいと思っている。

我々がまず地震、津波について、一番大事だと思ったのは、住民の皆さんのまとめ役になっている町内会長の皆さんに市の取組状況をお伝えすることと、津波に関してどういった課題があったのかをお聞きすることと考えたため、3月下旬から町内会長を通じて課題の集約をさせていただいた。その後、一番課題となっていた情報発信や住民避難に対して具体的に取り組みをしていかなければいけないということで、まずは、避難場所、避難経路、どういうふうにして要支援者を支援していくのか、そういったところが大きな課題となったので、町内会長、町内の防災担当、民生委員・児童委員の皆さんから集まっていただき、市の職員も一緒になって、計画の見直しや、避難訓練を実施させていただいた。

昨年度の提案は、市と直江津区地域協議会、防災士会直江津支部、直江津地区の町内

会で新たな会を立ち上げるというご提案だったと思うが、我々としては、まずはその町内会の皆さんと話をした中で課題解決をしていきたいと考えていたので、前回そのような回答をさせていただいたところである。また地域協議会の皆さんの役割としては、防災だけではなく、福祉や防災、まちづくり全般に関する課題に対して、こういった解決策があるのかと話し合う機関だと思うので、そういったご意見を踏まえた中で、また市の考え方も説明させていただきたいと思うので、まずは地域協議会の皆さんで話し合っていて、それをまた我々にお伝えしていただければ、ご回答したいと思う。決して皆さんのご意見が間違っているといったことで回答したつもりはないので、皆さんでまたご議論した中で、お伝えいただけたらと思う。

【増田委員】

課題だけ提供させていただく。

避難所に関して、収容人数が住民の1割程度と聞いているが、大規模災害が来ると、1割では済まなくなる。今回の避難所でも、備蓄物品が足りなかったというような話も聞こえてきているので、備蓄をどうするかということ。それから今回の災害は冬季の寒いときで、避難所に宿泊された方もいたが、暖房がないところもあるので、今後の検討課題だと思う。

それから被害の想定について、地震が海中で起きたときは津波の心配をしなければいけないが、内陸部で起きたときには、家屋の損壊という問題が出てくる。旧耐震基準の家屋もあり、家屋の半壊、全壊が想定されるので、それらの避難者も避難人数の想定に加える必要があるのではないかと考えている。

同じく被害想定について、もっと大規模な地震になると火災が発生して、道路も損壊するので、消防車が来られないということも想定される。そういったときの対応も検討しておく必要がある。

それから、津波についても、例えば、6月ぐらいの集中豪雨で関川が満水状態になったときに津波が来たら、おそらく直江津一帯が全部水浸しになるはずである。そのときにどうするのか、そのあたりも今後の課題としてご検討いただければと思う。

【危機管理課：岩崎課長】

避難所の収容人数については、おっしゃるとおり1割程度と見込んでいる。災害については、いつ発生するかわからないので、正月や観光、海水浴シーズンには、住民の皆さんのほかにも、旅行者の方も避難することも想定されるので、1割を超えることも考

えられる。

できるだけ多くの方を収容させたいが、施設の容量の問題や、備蓄品を収納するスペース等の問題もある。そこで、仮に足りなくなった場合は、集中備蓄ということで市内に何か所か大量に備蓄品を備えているところがあるので、あるところから運んで持って行くといった対応をさせていただきたいと思っている。

大規模な火災が発生した場合の対応については、上越地域消防局で対応しきれないところもあろうかと思う。そういった場合には、広域連携という形で、近隣の市町村や全国から緊急消防援助隊という形で駆けつけるような体制になっている。ただ、いずれにしても、すぐ駆けつけるのは困難なので、そうしたときには地域の皆さんから命を守る行動を優先してやってもらうことになろうかと思う。

また、複合災害もあり得るので、いろいろなハザードマップを見て、何種類か災害の逃げ方を考えなければいけないと思う。

いずれにしても、課題として認識しているのでよろしくお願ひしたい。

【磯田会長】

10月12日の総合避難訓練に私も参加したが、町内ごとに大分温度差があった。私の町内の例では、避難所に近い、避難所ではないところに集合という形になり、各班の点呼もなく、名簿に名前を書いておしまい、皆さん帰っていいという状況だった。

この総合避難訓練が今までと違う、津波避難計画の確認という大目標があるのも、初めてこれを見て知ったし、そうだったとすれば、やるべきことはもっとたくさんあったのではないかと思う。

この振り返り等は、市でまとめられていくと思うが、その部分について、地域協議会に、是非細かな資料や報告、状況の説明をもう一度お願ひしたいと、心からお願ひする。

【危機管理課：岩崎課長】

検証結果については、今取りまとめをしているので、まとめた段階で地域協議会にご説明したいと思うし、市議会にも報告しなければいけないと思っている。

10月12日の総合防災訓練がどうだったかというところについては、一番大事なのは津波というのは予知できないということで、台風等であればある程度予測をして、タイムラインを作って、避難行動を計画的にやっていくことになるが、地震、津波はいきなり来るので、地震発生から直江津に津波が到来するのが、約15分と短い時間である。点呼という話もあったが、まずは住民の皆さん一人ひとりが、強く揺れたら高いところ

に早く逃げる、これが第一原則なので、通常の避難訓練とは少し違うというところで、今回全部の避難場所に職員を配置して、何分で避難できたか全部タイムを計っている。

そういった結果を、後ほど町内会長の皆さんにフィードバックをして、その結果を見て避難の実効性を高めていきたいと考えているので、今いただいたご意見も含めて対応したいと考えている。

【丸山委員】

自宅にハザードマップがあるか確認したところ、平成27年の発行のものがやっと出てきて、最新版がなかった。直江津地区、五智地区、有田地区だけでもいいので、一回全戸配布をしてもらえないかという要望である。

【危機管理課：岩崎課長】

津波ハザードマップは、更新して令和3年に全戸配布している。今、丸山委員が言われたのは、多分古いタイプのものだと思うので、必ず全戸配付しているのもう一度見ていただいて、もしなければ言っていたら配付したいと思う。

【古澤副会長】

私たちは新しく町内会に加入された方には、いつもごみの出し方のパンフレットを渡しているが、ハザードマップも一緒に渡した方が良いと思うので、北出張所等の最寄り機関に置いていただければと思う。

【危機管理課：岩崎課長】

南北出張所の窓口には必ずハザードマップを置いているので、そちらに言っていただければお届けするし、また、在庫がない場合については、危機管理課でお届けするので、ぜひ窓口で言っていただきたい。

ハザードマップは少し厚いものになるが、多分直江津、五智地区の皆さんは、知りたいのは自分の住んでいる所の部分だと思う。その場合、市のホームページにも掲載しているので、私たちでも用意できるし、それを印刷してご自宅に貼っておくといった工夫をされている世帯もあるので、是非参考にしていきたい。

【磯田会長】

この辺で閉めさせていただきたいと思う。お疲れ様でした。

— 危機管理課、市民安全課 退室 —

【磯田会長】

では、引き続き、地域内視察について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

・資料No.4「地域内視察研修（案）」に基づき説明

【磯田会長】

今ほど、事務局から話があったように、事前に私と事務局で少し案を練らせていただいた。丸一日の視察になってしまうので、なかなか時間的に都合がつけられない方もいらっしゃるかと思うが、半日の参加だけでもよいと思うし、マイクロバスの日程等も踏まえてこのような提案をさせていただいた。ご意見等いかがか。

【古谷委員】

視察場所について、直江津区を知るということだが、歴史・観光名所は入っているが、新しくできた場所があまり入っていない。例えば、最近できたグランピング場は皆さんご存じないかもしれないし、そういう新しくできたところ、あまり行かれないようなところに行ってみたほうがいいのではないか。例えば、高校生が集まるような場所や、何か名物な方がいらっしゃる場所などもいいのではないかと思った。

【土肥委員】

私も古谷委員と同じような意見で、若い人は直江津区地域協議会を知らない。過去も大事だが未来も大事だと思う。

直江津で新しいことを始める人が、どのようなモチベーションでやっているのかを見ることも大事だと思うし、先ほど防災の話もあったが、無印良品さんがいろいろと防災についてやっているのだから、それも見るといいのではないか。

新しいことに関わることで、直江津区地域協議会に対して、若い人や女性、子育て世代の人なども興味を持てると思う。

【保坂委員】

視察の目的は、今後我々がそれをどのように課題として取り上げるのかというところに結び付けることではないかと思う。過去に皆さんが検討した課題について、どのように審議して、どういう結果になったのか、私たちには見えてこないのだから、そういうことも頭の中に入れておきたい。

【磯田会長】

事務局との打合せの中で、新しいグランピング施設や、先ほど保坂委員から意見があ

った今までの経緯を学ぶ座学を入れることも検討したが、まずは直江津区の現状を知ろうということで、今回のスケジュールを提案したしだいである。

五智公園や福島城址など、まずは現状を皆さんに見てもらわないと、解決に向けた発想につながらないので、押さえるべきところは押さえたいと思う。その中で、どのような視察をしたらいいのか、もう少し皆さんのご意見をいただきたい。

【鴨井委員】

1月6日は平日であるが皆さん出られるのか。これで、参加者が少ないとあまり意味がないような気がする。

【磯田会長】

ちなみにこの日にご都合が付く方はどのぐらいいらっしゃるか。

(5人程度挙手)

【古澤副会長】

マイクロバスの都合もあってこの日にしたところだが、5名では寂しい。日程を再考した方がよいかと思う。

また、先ほどの意見のように、若い方の意見や、女性の委員もいるので、女性の皆さんのニーズというものも取り入れていくとよいと思う。

【増田委員】

皆さんのご意見はもっともだと思うが、今回、会長や事務局が検討し提案している視察研修は、最初に委員になって何がやりたいのかと皆さんに聞いて、地域協議会として関わりたいという意見があった場所をピックアップして視察のコースを作っている。

先ほど古谷委員や土肥委員から出た意見は、今後の直江津を考えるとすごく大切なことではあるが、それはそれとして時期を改めて視察をしたほうがよいと思う。

いろんなものを全部詰め込んでしまうと、何が何だかさっぱりわからないことになってしまうという可能性もあるので、今回の場合は、皆さんから出た地域協議会として関わりたい事の現状を確認するという意味で回って見ていただく。その上で新しいものについて目を向ける機会を、日を改めて設けるということでどうかと思う。

【田中美佳副会長】

私たち前期から継続している委員は行っている場所もあるが、それを新しい委員と共有するためにも一度見ていただいて、その上で私たちから出なかった案などが出ると良いのではないかと思います。

【磯田会長】

事務局としては、いかがか。

【石崎係長】

日程に関して、再度調整をさせていただきたい。

11月中は会長のご都合とマイクロバスの都合が合う日がこの日しかなかったので、再調整後の日程は12月以降の日取りとなる。

【佐藤所長】

事務局と正副会長とで話をさせていただいて、皆さんのご都合も含めて改めて提示させていただきたい。

(委員了承)

【磯田会長】

本当は、何もフィルターがかかってない状態で見えていただくのが一番いいと思う。視察までに少し時間があるようなら、先ほど保坂委員から話があったように、こういう課題が今まで議論されてきた。現状、そこに向かっていくには、こういう問題があるというような話は、座学としてどこかのタイミングでやれるのではないかと思っている。そこは、事務局と相談をしながら勉強の機会を持ちたいと思う。

その他について、事務局何かあるか。

【石崎係長】

次回の協議会は、11月19日火曜日、午後6時半から、レインボーセンターで開催したいと思うが、いかがか。

【増田委員】

第1回地域協議会で定例開催を第3火曜日と決めたところだが、その後、第3火曜日に予定が入ってしまった委員がいるそうなので、次回の11月19日は仕方がないと思うが、それ以後は、もう一度皆さんから意見を聞いて、極力全員が出られるような設定ができればと思う。

【磯田会長】

それでは、その件について次回話し合うこととしたい。

- ・次回協議会：11月19日（火）午後6時30分から
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。